



平成29年3月24日
学校だより最終号
杉並区立東原中学校

“進級おめでとう！！”

校長 渡辺 宏

連休が明け、ようやく春らしい日が続くようになり、学校生活として今年度最後の週となりました。

先日行われました第66回卒業式では、春の穏やかな気候の中、49名の卒業生は、感動的である在校生の大合唱に見送られ、晴れやかな表情で本校を卒業して行きました。

本校の卒業式は、生徒が互いに祝い励まし合って喜びを共にし、厳粛で清新な気分が味わえる儀式的行事として素晴らしい内容です。また、本校で培われてきた“精一杯がかっこいい”“感謝”“絆”“期待に応える”“あきらめないかっこよさ”の校風は、当日歌われた卒業生や在校生合唱にしっかり現れておりました。今年も当日ご出席いただきましたご来賓や保護者の皆さまに、本校の積み重ねられて来た伝統に満足いただけたことだと思います。

振り返ってみますと、3学期だけでも、「百人一首大会」「受験」、「菅平移動教室（スキー教室）」、「学年末考査」、「本校栄養士を講師にした食に関する実習」、「学習発表会（フェスティバル・校内作品展）」等、短い期間にどの学年も多く行事をこなさなくてはならない学校生活。そのようなハードスケジュールの中、進級準備委員会を中心に3年生に感謝の気持ちを込めて“最高の卒業式をつくろう”“卒業式を成功させよう”。このようなムードが学校の進むべき方向として定着できたのは、昨年度の卒業式や進級に向けた取組の成果からだと思います。

生徒の総意で作りに上げられた卒業式。代表生徒たちが伝えてくれた「わかれの言葉」は、3年間の思いの事実や1・2年生に対する期待を籠めて誠実に伝えてくれました。その内容は、教職員、在校生、保護者、ご来賓の方々にとっても大きな感動を与えてくれました。卒業式を迎えるにあたり、卒業生の皆さん一人一人が3年間という限られた時間の中、最高のチームワークをもって取り組んでくれた成果が、あのような素晴らしい卒業式に、今年もなったのです。

東原中学校の平成28年度は、生徒一人一人の意識と協力で大きな事故もなく、本日の修了式をもって全ての授業を終えることができましたが、社会では、「いじめ」や「虐待」により、尊い命が失われたり、多くの子どもたちの心が傷つく事故等が多く報道されました。生徒一人一人が「自分らしく生きること」や「命の大切さ」を学び、将来に希望や夢を抱かせることに期待されている社会において、報道されたことがあっては決してなりません。

生徒の皆さん、本校に入学してから今日までを振り返ってみて月日が経つのは本当に早いものです。そう感じませんか？長い人生において中学校の3年間は大変短いものです。4月から2年生は3年生に、1年生は2年生へと進級します。そして、皆さんは学年が上がると任される仕事が増え、責任が重くなります。さらに、4月には東原中学校の生活に夢をふくらませた新入生が入学してきます。

東原スピリットである“自由と責任”。一人一人の生徒がこの言葉の意味をしっかりと受け止め、平成29年度も“生徒にとって理想の学び舎”となるよう、「一人一人の生徒が自覚をもって、新たな歴史を積み重ね、一人一人の思いが実現する学校を創り上げて欲しい」と心から期待します。

進級おめでとう！！

☆平成29年度4月当初の予定について！

○始業式：4月6日（木）

○入学式：4月7日（金）

“平成 28 年度 教育調査結果報告（抜粋）”

毎年実施している教育調査（学校評価アンケート）の集計が終わりましたので、数値データについてお知らせいたします。保護者の皆様方からも多くの回答をいただきました。お忙しい中ご提出くださり、本当にありがとうございました。

	領 域	保護者肯定率	生徒肯定率
1	経営全般	81.2	
2	小中一貫教育（実施状況）	38.3	
3	小中一貫教育（推進効果）	37.7	
4	特色ある教育活動	57.1	
5	学校評価	55.8	
6	学級経営	58.4	76.0
7	個に応じた指導	42.9	35.3
8	学習の成果		83.2
9	学習評価	61.0	58.1
10	系統的・連続的指導		67.7
11	生活指導体制	50.0	
12	道徳教育	63.0	47.3
13	体育・健康教育	72.1	40.7
14	教育相談体制	56.5	59.9
15	特別支援教育（理解・啓発）	20.8	
16	特別支援教育（交流及び共同学習）		44.9
17	学校安全（危機管理体制）	51.3	83.2
18	施設設備（ICT機器活用）	43.5	79.0
19	地域との協働	65.6	56.3

評価の方法は、質問項目について「肯定」「やや肯定」「どちらでもない」「やや否定」「否定」「回答不能」のいずれかで評価し、「肯定」と「やや肯定」の回答の割合を肯定率（％）という数値で表しています。「どちらでもない」という回答や「回答不能」についても全体数に含まれてしまうために、保護者の皆さまへの情報提供等が不足していると肯定率が低くなりがちですが、保護者の「子どもの学校生活に満足している。（経営全般）」の項目について肯定率は昨年度と同様に高く、概ね評価されていると感じています。

小中一貫教育の観点については肯定率が低く課題となっていますが、杉九小学校とはお互いに効果的な取り組みについて情報交換を行い、それぞれの学校行事やイベントに生徒・児童の交流活動を組み入れることで連携を深めています。今後は「すぎなみ小・中学生未来サミット」での活動を軸に、生徒会役員がリーダーシップをとり「小中合同あいさつ運動」を盛り上げ、学校生活をより良くするための取り組みについて、学校全体で推進していきます。

ICT 機器活用の観点については、生徒の肯定率と保護者の肯定率との差が大きく表れています。各教科の授業において ICT 機器を活用し、授業改善を推進していますが、授業を参観していただく機会が少ないことが原因ではないかと思われます。来年度は ICT 公開授業を年 1 回から 3 回（学期に 1 回）に増やし、保護者や地域に伝えながら積極的に活用していきます。

今後も、教育調査の数値に踊らされないことがないように学校の課題を冷静に分析し、改善を図ってまいります。教育調査のアンケート以外にも気になることがございましたら、いつでもご意見をお聞かせいただけますよう、ご協力よろしくお願いたします。